（別紙4）　　令和　2　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】(2ユニット共通)

事業所番号	2794800066		
法人名	社会福祉法人　なみはや		
事業所名	グループホーム松原なごみ		
所在地	大阪府松原市東新町５－４－１０		
自己評価作成日	令和2年12月1日	評価結果市町村受理日	令和3年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ　ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町２－１－８　FGビル大阪　4階
訪問調査日	令和2年12月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設長（管理者）が先頭になって、色々なレクリエーション企画を考案しています。食事レクBBQ、焼きそば、おにぎり。おやつレク　たこ焼き、ホットケーキ。入居者と職員とのコミュニケーションを大切にしています。地域との交流しています。例えば日曜喫茶に参加。（新型コロナウィルスの為、今中止）

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所を運営する社会福祉法人なみはやは、グループホームを大阪府内に3か所、和泉市内にケアハウスとデイサービスを運営している。「認知症になっても安心して暮らせる地域社会」を法人理念として、高齢者が住みやすい地域作りに取り組んでいる。今年は新型コロナウイルスの感染予防のためグループホームの特徴である散歩や外出、外食、地域交流といった活動が、外出制限や家族との面会制限のためできなくなっている。しかし事業所ではデイサービスの勤務経験を活かして管理者が主になって、外出できない利用者が退屈せずに過ごせるよう、いろいろなレクレーションを考えている。肉が食べたいと言う利用者の意向に沿うため、調査翌日には庭でバーベキューをするための準備をしていた。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
		○	3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は、職員が常に目に入る所に掲示し確認しています。日々のケアでは理念を意識して関り実践に取り組んでいます。	「その人らしさを大切にして尊敬と愛情を忘れず笑顔の日々を提供する」を事業所の理念としフロアに掲示している。開設以来職員の入れ替わりが多数あり、現在の管理者は職員の定着に注力してきた。職員も落ち着いてきたので、理念をどのように共有するかを検討している。	現管理者は前任者との引き継ぐが十分行われず、手探り状態で運営に関わってきた。最近ようやく職員も定着してきたので、ケアの方向性を統一するために、原点に立ち返り理念を皆で話し合い共有することを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウィルスの為、散歩や外出を控えていました。来年以降、散歩、外出、地域イベントの参加する機会を増やしていきたいと考えています。	自治会に加入し、日課として近くの公園に散歩や買い物に行き、公民館でのサロンに出かけていたが、今年は新型コロナウイルス感染予防のため外出ができなくなっている。地域との協力体制は必至と考え、新型コロナウイルスが収束してからは、更なる地域とのつながりの方法を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今まで支援してきた介護方法等地域に活かせる機会を持ち活動していきたいです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に幅広く知見者へ参加を呼びかけて、会議を活かした取り組みを推進し、事業所が地域での認知症ケアの拠り所として認識されるように地域にも目を向けていきたいと考えています。	偶数月に松原氏の高齢介護課、家族代表、管理者で運営推進会議を開催している。議事録はファイルにして利用者や家族が閲覧できるようにしている。民生委員や自治会等地域の方や知見者の参加がなく、サービス向上の話し合いはなされず、事業所からの報告に留まっている。	運営推進会議は定期的に開催しているが、地域の方や知見を有する者の参加が無い状況である。そういった方々に参加を働きかけ、運営に関する意見や、地域の情報の提供を求めてはどうか。また議事録を家族に送付し事業所運営の理解を深めることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウィルスの為、運営推進会議、グループホーム連絡会の開催を中止。事業所の相談、意見交換を必要時には随時、連絡確認をしている。	介護保険のことで分からない時には市の介護保険課に行き相談している。毎月入居状況の報告を行い、グループホーム連絡会への参加（今年は開催していない）、生活保護受給者の受け入れを行う等市町村の連携が図られるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動制限のないように日頃からさりげなく見守りし、安全確保している。身体拘束をしないケアを実践に努める。	身体拘束廃止に関する指針の整備を行い、研修は年4回実施している。スピーチロック（言葉による拘束）がないよう常に話し合いが行われている。職員から意図せず出てしまった言葉で気になった時には管理者がさり気なく職員に気づきを促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	常に虐待が見過ごされることがないように入居者の生活様子を確認し注意を払っている。職員へのストレス負担、軽減を図る支援を検討しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の勉強会にて理解を深める機会を持つようにしたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明の際にはグループホームの趣旨をご理解頂くよう努めている。生活状況や発生されると思われる事柄、対応を事前に話し合い、納得して頂いてから契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の要望等は、個々にあった落ち着いた時間帯に耳を傾け日常会話の中から汲み取るようにしている。家族には、電話、面会時に要望、苦情等を伺うようにしている。	事業所から毎月松原なごみ通信を発信し、連絡事項や職員の入退職情報、行事の予定を伝えている。家族と管理者とはホットラインで24時間何時でも連絡が取れる体制を整えており、運営に関する意見や要望が伝えられるようにしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月１回のミーティングの際に話し合いを持ち希望や提案を出して頂いている。	毎月フロア会議、主任会議、事業所全体で行う全体会議を開催している。管理者は日頃から職員と話す機会を持ち、意見や提案を聞くようにしている。職員がゆっくり休憩できるように利用者の食事の時間を前半と後半に分けたり、2階の事務所を休憩室に開放するなど職員が働きやすい環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の健康診断を行っている。実績、有資格者などは昇給、昇格を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受講できる機会を作り、勤務しながら資格の取得を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会で意見交換をしている。今年中新型コロナウィルスの為、中止。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問して頂いたり、ご本人の要望や不安を傾聴し支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今後も個々に合ったサービス提供に努め、私たちが出来ることを話し合う機会を持って支援していきたいです。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問やグループホームに来て頂く機会を設け、本人やご家族の抱える不安を傾聴し、本人本位の支援で、ご家族や支援者側とのかかわり方を話し合っていきたいです。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で役割を持って頂き、個々の能力に応じ共に掃除、洗濯物たたみをしながらグループホームの一員である事を実感してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には気軽にお飲み物を飲まれ会話が出来るように行い本人様の以前の暮らしや思いや要望をお聞きしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お手紙、電話連絡出来る機会も設けている。	コロナ禍以前は家族と一緒に外食に行ったり、墓参りに行っていた。近隣からの入居が多いので近所の方や知人の訪問もあったが、現在は外出や面会の制限がありできていない。電話での対応を行い関係性が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の特徴を把握し座席を考え楽しく会話できる場提供し関係作りに配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に転所されても面会に行く機会等を作っている。又は定期的にご家族様に電話連絡させていただいている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活暦を考慮し、状態や表情から思いや意向を汲み取り本人らしさが出るよう支援している。	昼食後のゆっくりした時間や入浴時、または居室で利用者と職員が1対1になるような場面で、利用者から思いや意向の把握をしている。コロナ禍で外出や外食に行けない利用者から庭でバーベキューをしたいというリクエストがあり、実現できるよう準備を進めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	歌が好きな方、絵を描くことが楽しみな方。これまでの習慣などを本人含め、ご家族や知り合いの方からお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に応じて生活ができるよう日々の生活の中から本人の思いを共感しさりげない支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングの際、入居者様個々の状態等確認し支援方法を考えている。ご本人やご家族から状況を把握し日々の生活状況の中からも支援方法を考え、見直しも行っている。	介護計画は短期目標を3ヶ月で設定し作成されており、モニタリングも3ヶ月毎に実施している。本人の状況に変化があった場合にはその都度見直しを行う。介護計画は訪問診療を行う医師や看護師の意見、日々の状況を見ている職員からの情報を基に作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートを活用し情報の共有を行い、毎月のミーティングで話し合い、職員の気づきは記録し実践や介護計画に反映させプランに基づいて毎日の記録を改善している段階です。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ミーティングの機会に支援方法について話し合っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みのスーパーへの買い物、散歩コースにて知り合いの方との交流をしている。新型コロナウィルスの為、外出を自粛しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族希望のかかりつけ医を確認している。原則、ご家族様に受診をお願いしているが緊急時や移動介助が困難な場合等はグループホームで送迎している。	入居時の確認で連携医療機関の内科医をかかりつけ医として月2回の訪問診療と、希望者が訪問歯科医の診療を受けている。他の専門科受診は家族対応を原則とするが、必要に応じて職員が随行し受診している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師とは、適切に情報交換して共有しながら、個々入居者の支援している。普段から健康管理や医療面を相談して対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	担当医への紹介状、介護経過報告書等を提出し情報交換や連携を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在看取り対応実績はなく、少しでも変化あった場合は、即座に家族に報告、連絡して、重度化する前に他病院、施設への転所を家族に伝えて意向を聞きながら迅速に対応している現状である。	重度化した場合は入院を前提とした対応を説明し、緊急時の延命措置に関する取り決め6項目について同意を得て医療機関に搬送している。看取りについては職員体制整備に時間を要するとして、今後の課題として強く意識している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応に備え講師会に参加している。緊急連絡体制が整備されて、近隣職員が応援に来てくれる体制となっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に関しては、災害対策計画を立て、それに応じた訓練を行う事により普段から災害意識を高める。グループホーム年2回防火訓練を実施。	本年度は9月に火災避難訓練を、消防署の要請で通報訓練とし注意事項も確認しており、次回はR3年2月の実施を予定している。防火・風水害・地震対策マニュアルを有しているが、一般的なものであり当事業所に適しているか否かの検討が必要と考察する。	立地条件・構造上・利用者状態・職員勤務体制などを考慮した対策の策定と備蓄・防災用品の再検討、複数回の訓練について職員全員による合議と実施を期待する。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が、プライバシーに配慮した言葉かけ等を心掛けている。	接遇研修や現場での言動注意で、日々の不適切行為への関心（反省も含む）を高め、理念とする「すべての人の尊厳を大切にする」の浸透を目指して努力している。記録などの保管は適切である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事前準備やテーブル拭きを進んで行えるようさりげなく確認準備をして自発行為を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	仕草や行動を見極め。個々にあった生活への思いを察するよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向を確認して、訪問美容室を利用してカット、毛染め、パーマ、顔そりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	狭い台所ながらも、入居者の出来る範囲でお手伝いをされている。	業者からの献立付き食材を各ユニットで調理して、利用者は夫々のできる範囲で下膳などを行っている。肉の所望に数回バーキュー、おやつに粉ものつくりなどを工夫している。コロナが収束したら回転すしにと、利用者・職員の熱望がある。管理者２人の検食で業者に意見を伝えている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託管理栄養士による献立や個々の好きな物、食事形態、水分量、食事量の少ない人は、申し送りしながらその都度把握し支援している。好みの水分が取れるように行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを行なっている。ポリデントで洗浄消毒を支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況が分かるように、排泄表に記入しながら、入居者の排泄パターンを把握し支援している。	軽度者6名以外は紙パンツにパット、おむつ使用であり、それぞれの状況によるトイレ誘導での自立支援に努めている。夜間は3時間を目途にパット・おむつの交換としているが、安眠にも留意し、且つ家族の費用軽減にも配慮が必要としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体を動かして、水分量を調整しながら、便秘解消出来るように支援している。時には個々に応じた下剤を服用されている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の状況に合わせてゆったりと入浴できるようにしている。入浴拒否の方でも言葉掛けや時間をずらす工夫している。入浴レクも実施。桜湯、バラ湯、よもぎ湯。	週2回、午前中に3名を基本としている。毎回湯を入れ替え、季節の花など植物でお風呂の楽しみを作り出そうと工夫している。感染予防として、一人ずつ足ふきマットを交換している。重度者はやむを得ずチェアーでのシャワー浴となっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節毎の状況を考え（寝具、温度、衣服）支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常用している薬に関して、職員が確認できる場所に配置、更に追加した薬に関して口頭で説明を受け各職員が服用確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様がすすんで台拭きを行う場面があり、自主行動を尊重している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウィルスの為、外出を自粛しています。外出機会を持って、家族の協力もあり。近くスーパー買い物、公園に散歩される。毎年開催の日帰りバスツアーもあります。	コロナ禍以前は、近隣だけでなく堺市役所21階の展望などの遠出、連携病院主催の日帰りバスツアーに参加するなど、積極的な外出支援を行っている。近時では、近くの公園と周辺の散歩、花壇の水やりに止まっているが、代替としてレクリエーションの工夫に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけた際、ご本人が支払いできるように対応したいと思います。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族には、電話でおはなしされている。可能な限り本人の希望に添えるよう支援させて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の作品をフロア内、居室内に展示したり、季節感を持って頂くように支援しています。	リビングは明るく共用空間の整備がされ、余裕のあるスペースにテーブル2卓が程よく配置されている。寛ぎ場所としてソファー2つ、壁面に季節感のある飾りがあり、工夫された落ち着きのある設えとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビで時代劇を見る、歌を聞く、居室でテレビを見る方、それぞれが安心して共用されている。ソファー設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人にとって安心した居心地よい居室となるよう、馴染みの物や写真や趣味を行うテーブル等配慮、行動スペースを確保し安全も配慮して生活されている。	ベッド・クローゼット・小箪笥・台付テレビ・洗面台と生活に必要なものは既設されており、個人の好みでの持ち込み品、写真や小物類がその人らしさを窺わせている。歩行や車イス操作の安全に配慮があり、食後は居室に直行という利用者の生活スタイルにもバランスを考えながら過ごしてもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活改善に取り組んでいる。一人一人の出来ることを考え実践していきたいです。		